

調査・研修等計画届出書

令和元年 7月 17日

瀬戸市議会議長 様

議員名 長江 秀幸



政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和元年 8月1日から 8月2日まで (1泊2日)	
調査先・研修名	全国地方議会サミット	
会場名(会場所在地)	東京ビッグサイト 7F 国際会議場	
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	本市も議会改革が進み、本年度も引き続き更なる議会改革、議会基本条例の評価検証等を行っていくが、今回のテーマである「チーム議会」についても本市の課題である。議員だけでなく議会事務局・執行部、学生やNPO等との団結についても先進事例報告があると思うので、しっかり学んでいきたい。	
議長名の依頼	要・ <input checked="" type="radio"/> 不要	依頼先(名称)
同行者名	池田信子、三宅 聡	

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和元年8月30日

瀬戸市議会議長 様

議員名 長江 秀幸



政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和元年8月1日から8月2日まで(1泊2日)
調査先・研修名	全国地方議会サミット2019
会場名(会場所在地)	東京ビッグサイト 7F国際会議場
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	本市も議会改革が進み、本年度も引き続き更なる議会改革、議会基本条例の評価検証等を行っていくが、今回のテーマである「チーム議会」についても本市の課題である。議員だけでなく議会事務局・執行部、学生やNPOとの団結についても先進事例があると思うので、しっかり学んでいきたい。
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	
1日目 【基調講演】「なぜ今“チーム議会が必要なのか”」 北川 正恭氏(早稲田大学名誉教授、元三重県知事) ・定数、歳費、活動費の削減⇒改革⇒質的充実 ・政策条例作成 ・地方創生は議会から ・事務局は対等(協力関係)⇒チーム議会 ・議会全体で活動していく	

【パネルディスカッション】「NHK地方議員2万人アンケートのホンネ」

江藤 俊昭氏（山梨学院大学教授）

杉田 淳氏（NHK報道局選挙プロジェクト副部長）

久保 隆氏（NHK報道局選挙プロジェクト記者）

- ・アンケート調査 約2万人（59.6%）
- ・はじめて立候補した年代⇒40代半ば、60歳が多い
- ・主体的理由ではない⇒人に頼まれた
- ・マスコミは不祥事の時しか地方議会を取り上げない

【パネルディスカッション】「チーム議会に職員だからできること」

清水 克士氏（滋賀県大津市議会局次長）

小原 昌江氏（岩手県北上市議会事務局議事課長）

岩崎 弘宜氏（茨城県取手市議会事務局次長）

小林 宏子氏（東京都羽村市議会事務局長）

- ・最近は事務局職員も含めてチーム議会
- ・やりがいのある職場かが大事（雑務返上）⇒議会が良くなる（耳を傾けてくれた）
- ・議会愛
- ・ファシリテートの力（コラボの取り組み）⇒やりたい仕事
- ・事務局職員研修会（北上市）年2回
- ・職員の提案を議員も聞いてくれる
- ・議員のため⇒市民のため
- ・勝手にアポを取って視察に行っている議員がいる（事務局を通してください）
- ・下僕扱いする
- ・議長の命令で視察
- ・事務局（提案・意見）⇒議長に相談⇒発議
- ・委員会で事務局が発言（取手市）
- ・選挙でメンバーが変わる⇒職員が理解し議長に報告（取手市）
⇒第3者評価、ミッションロードマップ（スケジュール）
(大津市)
- ・新しいことをやると失敗することもある（リスク）
- ・新しいことをしようとする仕事が増えるが、大変だという声は職員からはでていない（タブレットで軽減）（北上市）
- ・議員が目線をさげる（心を開く）
- ・柔軟に対応していただきたい
- ・改善提案が通ってやりがいになっている⇒やりがいのある職場として職員に選ばれるようにならないといけない（羽村市）
- ・人が大事⇒執行部から引っ張ってくる⇒仕組みはあとから

【先進事例紹介】「AI・ICTで議会の未来を切り拓く（その1）」

松田崇義氏（株式会社メディアドウ smart 書記事業部長）

- ・テクノロジーやIT活用の流れは企業だけでなく学校や地方行政、議会でも遅かれ早かれ避けられない流れになると考えています
- ・議会における職員や議員の業務効率化、議論の活性化＋若年層の関心を強める

【講演】「チーム議会の視点から見る議会・議員の役割」

片山 善博氏（早稲田大学教授、元総務大臣）

- ・チーム⇒野球（9人）力を合わせて勝つ
⇒議会⇒取締役会のように（企業）⇒心を一つにしていく⇒使命は決めること（議案を決めていく）
- ・裁判所にも似ている⇒起訴 ・裁判官（チーム）⇒事件を処理
- ・議会の大事なこととは決めること
- ・チームになっていない（二元代表制になっていない）
- ・議員が個別に市長とつながっている
- ・与野党分かれるのは本来の代表でない
- ・議案をしっかり見ていくことが大事
- ・公聴会で反対意見も聴く（市民を呼べばいい）⇒なされていない
- ・決めたら責任を持つ
- ・教育委員会をしっかり見ていく⇒責任（議会が決めた）
⇒いじめ、多忙化もなくなっていない
- ・条例は議会が管理する（例規集）⇒本来市長ではない
- ・事務局に法にたけた人必要

【総括】

北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

- ・議会が善政競争すればピリッとする
- ・議会の都合で議長任期を決めている
- ・議会が主役⇒地方創生

2日目

【先進事例報告】「チーム議会の実践と課題」

千葉 茂明氏（月刊「ガバナンス」編集長）

早苗 豊氏（北海道芽室町議会議長）

師岡 覚氏（三重県四日市市議会議長）

梅村 均氏（愛知県岩倉市議会議長）

- ・若い議員はやるのが当たり前
- ・足を引っ張らない

- ・ 競い合って提案していく
- ・ 失敗してもOK
- ・ 定例会前に交換会（決まったことを聞く⇒決まる前のことを聞く⇒審査に反映していく）
- ・ 議員主導で改革
- ・ 事務局の使い方が悪い
- ・ 議長⇒事務局にアイデアを出して欲しい⇒意欲のある職員
- ・ 4人の事務局（岩倉市）事務局からの提案ない
- ・ 議長のリーダーシップ+事務局の知恵⇒変わっていく風土あり

【パネルディスカッション】「チーム議会の視点から首長との関係を考える」

北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

谷畑 英吾氏（滋賀県湖南市長）

越田 謙治郎氏（兵庫県川西市長）

上村 崇氏（京都府京田辺市長）

- ・ 議会と言いたいことを言い合っている
- ・ 議会としての意思表示⇒議員間討議⇒執行部へ言う
- ・ 首長としても事務局人事は重視
- ・ 議会が強くなる必要がある
- ・ 局長、次長はエース級
- ・ 局長、次長とセットで人事する
- ・ こま使いではない
- ・ 職員もチーム（仲間）
- ・ 災害時議会は対策本部に入らない⇒タブレットで情報
- ・ 復興は議会の出番

【先進事例報告】「チーム議会の視点から選挙のあり方考える」

中村 健氏（早稲田大学マニフェスト研究所事務局長）

則武 宣弘氏（公明党岡山市議団）

中原 淑子氏（公明党岡山市議団）

林 敏宏氏（公明党岡山市議団）

- ・ 議員マニフェスト、会派マニフェスト⇒チーム議会
- ・ 市議団の提言（岡山市民未来創生プラン）・・・4年間かけて調査・作成
- ・ 市議団（岡山市民未来創生プラン）→市長

↓

議会

- ・ 9割以上の施策が前進
- ・ 多様な市民の声を敏感に捉え、施策として具現化するのが地方議員の役割

【先進事例紹介】「AI・ICTで議会の未来を切り拓く（その2）」

米田 英輝氏（東京インタープレイ株式会社代表取締役）

・タブレットの導入効果

市民への説明時に活躍、大量の資料を持ち運べる、印刷・配布業務が大幅に減る
過去の資料の活用が進む

・今後の展望

自治体間で議案や計画を共有、より分かりやすい資料の研究が進む、審議が深化、
データベースをAIが分析する

【パネルディスカッション】「チーム議会の視点から市民との関係を考える」

佐藤 淳氏（青森中央学院大学准教授）

瀧野 良枝氏（長野県飯綱町議会議員、元飯綱町議会政策サポーター）

竹下 修平氏（愛知県新城市議会議員、元新城市若者議会議長

原口 佐知子氏（静岡県牧之原市市民ファシリテーター）

田口 裕斗氏（岐阜県可児市議会高校生議会、現立命館大学3年）

・共通の目標⇒頑張ろう⇒コミュニケーション

・若者議会・・・2月上旬に議会と意見交換

・可児高校（キャリア教育）⇔市議会

・高校生議会・・・グループワーク（地域の課題）⇒議場で発表

・市民ファシリテーター・・・市民が何で決めるんだ（議会）

↓

学びの場（議員も参加するように）

・市民と情報共有大事

・良い市民を育てるのが議会の仕事

【パネルディスカッション】「国会は地方議会をどう見ているか」

石破 茂氏（自由民主党衆議院議員、元地方創生担当大臣）

稲津 久氏（公明党衆議院議員、党地方議会局長）

逢坂 誠二氏（立憲民主党衆議院議員、元ニセコ町長）

廣瀬 克哉氏（法政大学教授）

・自治体の政策はその地域でないと分からない⇒地方創生

・ローカル経済をいかに伸ばしていくか

・直接市民と向き合っている（原点）⇒国に反映

・議員力アップ（聴く力）

・議員、事務局、執行部、有識者⇒チーム議会としての力が不可欠

・地方議員が地方創生に参画

・地域を知ってどうあるべきか時間をかけてしっかり考える

・公聴会を行う（形式にとらわれない）

- ・ 報告会・・・議会の力がついてくる
- ・ 地方から変わらないと国は変わらない

【総括】

北川 正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

- ・ 地方創生は議会から
- ・ チーム議会で活動

調査先（主な質疑・応答内容） / 研修（受講後の感想）

議会改革は目的ではなく、住民福祉の向上をいかに達成するかということを再認識した。先進事例として公明党岡山市議団の報告もあったが、「多様な市民の声を敏感に捉え、施策として具現化するのが地方議員の役割」とのことであった。

また、市執行部との定期的な意見交換や議会質問といった粘り強い取り組みによって「9割以上の施策を前に進めることができた」と強調していた。マニフェストで掲げた政策を日常的に訴えることで、広く市民に公明党の考えを知ってもらうことができたとし、「次期プランの政策作業を始め、新たな政策を提案していきたい」とのことであった。会派の政策を行政・市議会に提案しているが、基本的に調査の時点で多くの市民意見が入っている。また、政策を議会全体のものとして進めている成功例であった。瀬戸市議会は委員会中心の活動になってきているが、議員が同意し、総体として議会活動をし、地域に政策として実現していくという意味では同じである。ぜひ参考にしていきたい。

調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

今回のサミットのテーマは、「チーム議会が地域をより良くする」ということである。議会改革を進めるのは、住民福祉の向上のためであり、当然地域も良くなっていかなければならない。瀬戸市議会は急速に改革を進めるものの、まだまだ発展途上である。議会改革も第2ステージに入ったといわれるが、議員、議会事務局、それに市民も加わり、チーム議会として議会活動を行い結果を出していかなければならない。

今年度から常任委員会の任期が2年となり、新人議員も加わってのスタートである。更なる開かれた議会を目指していく中で、市民の声を聴き、それを政策資源とし、政策として実現していく議会へと成長していかなければならない。